

1 在宅医療と介護の連携について

- (1) 介護を必要とする方が、住み慣れた地域で可能な限り自立した生活を送るため地域での支え合う体制づくりの状況を伺う。
- (2) 介護度が低く歩行ができて認知症を患っている方は、常に見守りが必要となる場合がある。家族の見守りも必要だが、それ以外にも何らかのサービスを活用するなどの対策も必要と考えるが、現状を伺う。
- (3) 核家族化による家族体系の変化によって老々介護が増えている中、介護保険制度のサービスや福祉サービスを使いながら自宅で介護をすることを希望している高齢者が多い。家族の介護が十分行き届かないと介護の負担が増大し、介護給付費が限度額を超える事態が生じることもあると考えるが、現状を伺う。
- (4) 介護の症状が進み介護度が高くなるにつれて介護の負担が増大し、医療依存度も高くなり介護サービスを多種利用するケースも考えられ、金額も多くなり限度額を超える事態が生じることもあると考えるが、現状を伺う。
- (5) 在宅医療と介護の連携において、認知症の方に対する専門医との連携や在宅介護支援のさらなる充実を図るための訪問診療の医師の充実及び地域で支え合う仕組みづくりを伺う。

2 水害時の対応策について

- (1) 市内における近年の浸水状況を伺う。
- (2) 災害発生の際の恐れがある時、市として情報収集及び情報の共有や市民を避難させるための避難勧告などの発令の考え方について伺う。
- (3) 道路が冠水や土砂災害などで寸断された場合の救急搬送や緊急輸送について伺う。
- (4) 浸水対策として本庁及び支所に設置された土のうステーションは自衛手段として有効であるが、運用及び活用状況を伺う。